

事例 5

豊穰の郷をめざして：ぶどう栽培にかける情熱

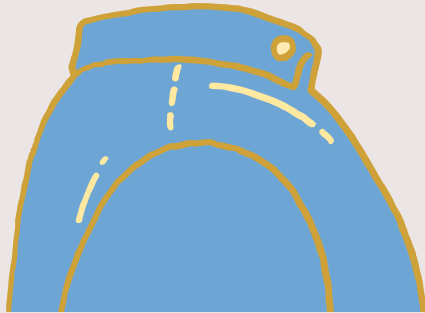
～畑地帯総合整備事業(担い手育成型)浜地区～

[出雲市]



【地区の概要】

事業年度 平成8年度～平成13年度
 事業費 910,000千円
 受益面積 32.7ha
 内、区画整理0.8ha
 新規ぶどう団地造成4.2ha
 事業内容 揚水機場1カ所、パイプライン7.2km、
 散水施設整備32.7ha、農道整備2.5km、
 防火水槽2カ所



出雲市浜地区では、老朽したかんがい施設の更新、狭隘な農道の拡幅整備、ぶどう団地の新規造成を行い、担い手の育成を図りながら、次世代につながる「豊穰の郷」づくりに取り組んできました。

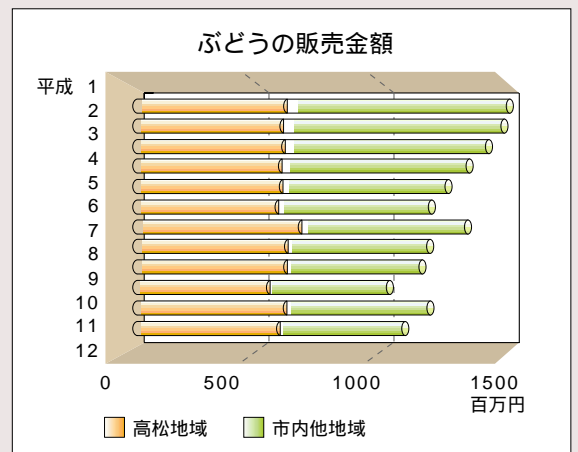
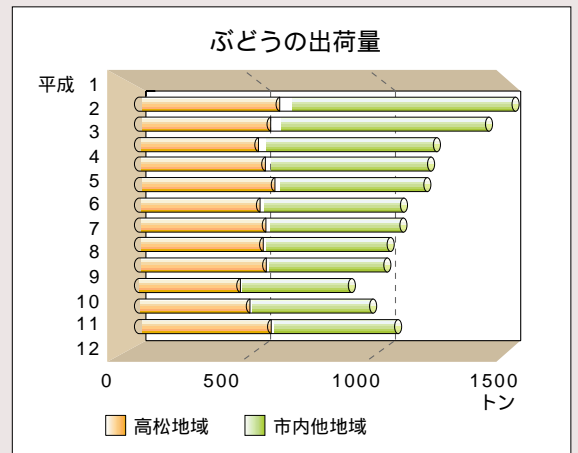
浜地区は出雲市高松地域の中にあり、高松地域のぶどう栽培面積の約7割を占め、大阪・神戸等の大消費地への出荷元となっており、その主産地としての役割を担っています。

一方、出雲市のデラウエアの栽培は県内生産量の約1/3を占めているものの、後継者不足と老木樹化により年々出荷量、販売額とも減少傾向にあります。

その中であって高松地域は、適切な施設の更新と担い手の確保等により主産地としての地位を確保しており、年々そのシェアは高まりつつあります。

区画整理により改植を行った0.8haは12年度より本格的な出荷が始まっており、新規造成したぶどう団地(4.2ha)は平成14年度から本格出荷が可能となる見込みです。

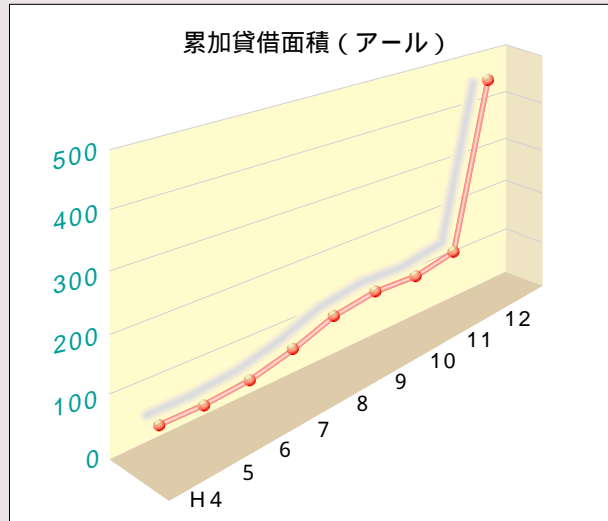
取り組みにより、H12程度の収穫が見込まれば、出荷量で48トン、販売額で5千万円程度の増収が期待できます。





スプリンクラー散水状況（散水直径20m）

本事業の実施を契機として、地区内において新たに担い手農家が設定され、貸し手農家との貸借契約等により担い手へ農地が集積されました。



現在、新規就農者3人を含む13人の担い手農家を中心に23人（平均年齢50歳）が約430aのぶどう園を借り受け、地域全体の後継者としてぶどう生産に携わっています。



担い手の皆さん



地区全景